



### 二十六人の殉教

#### 長崎巡礼②

長崎市内は市電が走っている。今回は車で行ったので乗ることはなかったが、市電でのんびりと市内観光をするのもおつなものだ。さて、泊まったホテルは長崎駅の真正面にある。といっても、前に市電やバス停などがあり、それをまたぐ二階の歩道を通って行かねばならない。

ホテルを出て右側、長崎駅を背にして左前方へ。ぐらいのところにあるNHKの建物。その横の坂道を登っていくと、中腹に西坂公

園がある。一五九七年、この地で二十六人のキリシタンが処刑された。

豊臣秀吉はその十年前の一五八七年、伴天連(バテレン)ポルトガル語で神父の意味)追放令というキリスト教禁止令を出した。日本古来の仏教界への配慮やキリスト教布教は侵略を意図しているのではないかという疑いなどから出されたという。しかし禁教はするが黒船来航、貿易は奨励するという矛盾があり、徳川家康が一六一

四年に出した禁教令と比較するとはるかに緩やかで、長崎では次々と教会が建てられたほどである。

ではなぜ、京都、大阪で捕らえたキリシタンを一カ月近く歩かせて長崎に連行し、四千人を超える群衆の前で十字架につけて殺したのだろうか。

それは前年に高知に漂着したスペイン船に起因していると言われている。フィリピンからメキシコに向かう途中だったこの船には、大な積み荷があり、その没収を正当化するためだったとも言われる。長崎に連行された二十六人の行列の先頭に

は「マニラから使節の資格で来たので、都に留まることを許した。しかし余が数年前に禁止したキリスト教を布教したので、それを信奉する日本人とともに死刑に処する」とあった。

イエズス会員であるサビエルによって伝えられたキリスト教。ローマ教皇は日本での布教をイエズス会だけに許可し、イエズス会は

禁教令発令後は表だつた活動を控えていた。ところが、一五九三年にフィリピン総督の使節として来日したフランシスコ会の司祭でもあるペテロ・パプチスタは京都で公然と布教し、禁教令を無視した。

遭難船の中にフランシスコ会の修道士がいることを知ると、秀吉はフランシスコ会宣教師と関係日本人を捕ら

えて処刑することにした。つまり「禁教奨商」での禁教令を軽んじたことへの見せしめとして二十六人を処刑したものと思われ

秀吉は耳や鼻を削ぎ落とせと命じたり、取り巻きの配慮で左耳が切られた。いずれにせよ見せしめのために極めてひどい扱いだった。

しかし、子どもを含む二十六人は神の救いを確信し、連行中も微笑んでいた者もいたと記されている。

「祈る時、私たちは神さまの愛の光になります」

○今週の言葉

「元山口放送取締役ラジオ局長」

「マザー・テレサ」

「マザー・テレサ」

「マザー・テレサ」

「マザー・テレサ」

「マザー・テレサ」

「マザー・テレサ」



西坂にある二十六聖人記念碑



26人の京都から長崎までの1カ月のおおよその行程